

令和３年度 第１回 十勝定住自立圏共生ビジョン懇談会（書面開催）結果

令和３年度第１回十勝定住自立圏共生ビジョン懇談会については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、書面にて開催しました。

■ 開 催 日 令和３年８月３０日（月）

■ 出 席 委 員 １２名全員

■ 会 議 次 第

１ 議事

- （１） 座長の選任について（資料１）
 - （２） 共生ビジョンの取り組みに対する意見・提案について（資料２・３・４）
- （参考資料） 第３期十勝定住自立圏共生ビジョン概要版（参考資料１）
共生ビジョン年度改訂に向けたスケジュール（参考資料２）

２ 報告

- （１） 十勝定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱の一部改正について（資料５）

■ 開 催 結 果

１ 議事

- （１） 座長の選任について
委員の互選により、学識経験者である帯広畜産大学の窪田委員を選任しました。
- （２） 共生ビジョンの取り組みに対する意見・提案について
共生ビジョンの年度改訂（案）をご確認いただき、協定に基づき推進する具体的取組に対する意見又は、地域の課題解決や十勝圏のさらなる発展に向けて、単独の市町村では対応困難な課題や、連携により効果が上がると考えられる取り組みなどについて、各委員からご意見をいただきました。その概要及びご意見に対する考え方は次のとおりです。

No.	関連協定項目等	意見の概要	意見に対する考え方
1	■1-1- (1) 救急医療体制等の確保	十勝全域を対象とする2次救急医療体制の新たな枠組みの構築に向けた協議が必要である。その上で、3次救急を担う救命救急センターの充実に必要な運営支援を継続するとともに、帯広市内の2次救急を担う医療機関に対しても、各市町村からの財政支援などの見直しを再度求める。また、コロナ禍にあるが、十勝総合振興局が主催する「病院群輪番制に係る課題検討会」の開催状況や協議内容の報告が必要である。	2次救急医療体制の維持確保のため、十勝総合振興局が主催する「病院群輪番制に係る課題検討会」を平成30年度以降5回開催し、検討を進めていたところではありますが、コロナ禍の影響により、進捗が滞っている現状に加え、新型コロナウイルス感染症を踏まえた協議が今後必要であると考えているところであります。引き続き、十勝総合振興局を中心とした関係機関等と連携・協力し、検討を進めてまいります。
2	■1-1- (2) 地域医療体制の充実	病診連携の推進や不足する医師・看護師の確保に関して協議・検討する場の設置が検討されている。しかし、コロナ禍にあり、現在も未開催で、開催に向けての情報共有や協議も行われていない状況にあり、今後の見通しについて報告が必要である。	コロナ禍の影響により、検討の進捗が滞っている現状に加え、新型コロナウイルス感染症を踏まえた協議が今後必要と考えているところであります。引き続き、現在行われている病診連携の課題や、今後の対応の在り方などについて、医師会や関係機関との協議を進めてまいります。
3	■1-4- (2) フードバレーと かち及びバイオ マスの利活用の 推進 ■1-5- (1) 地球温暖化防止 に向けた低炭素 社会の構築	農林水産省が策定した「みどりの食料システム戦略」では、様々な取組みに目が向けられており、十勝・帯広でも食料生産基地として積極的に議論されているところかと思う。一方、森林・木材に関しては関心が薄いような印象だが、どのような視点・取組があるのか。	共生ビジョンには、バイオマスの利活用の推進を位置付けております(P50)。具体的な取り組みとしては、十勝19市町村が参加する十勝バイオマス産業都市構想における木質バイオマスプロジェクトとして、林地残材等の木質バイオマスの熱利用等の利活用を進めています。また、各市町村では、木質ペレットストーブの設置費用の一部助成や、木質チップやペレットの製造、植樹などを行っています。今後も低炭素社会への実現に向け樹木の育成と活用を図ってまいります。

No.	関連協定項目等	意見の概要	意見に対する考え方
4	■2-1-(1) 地域公共交通の維持確保と利用促進	新型コロナウイルス感染症の拡大により収支の悪化に拍車がかかり、運賃収入のみに頼る交通の維持が限界にきている。異業種との連携による付加価値創出、客貨混載による物流の展開など、旅客輸送の固定概念にとらわれない新しい取り組みにチャレンジして、新たな収入源を作り出していく必要がある。	新型コロナウイルス感染症により、公共交通機関の利用者減少に伴う運行収支の悪化が長期化しており、公共交通を取り巻く環境は一層厳しさを増しているものと捉えています。 持続可能な公共交通サービスの確保を図るため、引き続き利用促進及び利便性向上策を実施するほか、貨客混載等の収支改善策について、国や道、関係機関等と連携・協議しながら検討を進めてまいります。
5	■全分野	行政の動きのみならず様々なところでSDG s とのつながりを説明することが求められている。それぞれの取り組みが17項目の何につながるのか、視覚的に示していくことも求められるのではないかな。	共生ビジョンは、圏域の将来像として、医療や福祉をはじめ、教育、産業振興、地域交通など様々な分野で十勝の各市町村が連携・協力し、誰もが安全で安心して豊かに暮らすことのできる地域社会の実現を掲げており、経済・社会・環境面の互いに影響し合う課題を統合的に解決し、よりよい社会の実現を目指すSDG s の理念と相通じるものと考えております。 個別の取り組みは、SDG s 全体に広く関わりを持つものであることから、取り組みごとにSDG s の各目標を示してはおりませんが、今後も共生ビジョンの推進を通して、持続的に発展する活力ある地域社会の実現に取り組んでまいります。

No.	関連協定項目等	意見の概要	意見に対する考え方
6	■全分野	最近「SDG s」「低炭素社会」「DX化」など、世界的に大きな取り組みが取り上げられている。このような状況変化に対応し、ビジョンも改訂すべきである。	共生ビジョンは、圏域の将来像や協定に基づいて推進する具体的な取り組みを記載しているものです。現時点で「誰もが住みたい、住み続けたいと思える十勝を目指す」という圏域の将来像が変わるものと考えておりませんが、取り組みを進めるにあたっては、時代の潮流を捉えていくことは重要であり、ビジョン懇談会や市町村長意見交換会等を通じて、市と町村が役割分担や連携することが効果的であると考えられる具体的な取り組みの提案がありましたら、協議してまいります。
7	■全分野	コロナ禍は、21の協定項目の評価又は取り組みのうち11項目に記載があり『定住自立圏はこれまで「仕事の創出」や「交流人口の拡大」、「安心して暮らせる生活基盤の強化」などに取り組んできた』とあるが、全てに大きな影響をもたらしている。現状を認識した協議が必要である。	新型コロナウイルス感染症は、社会・経済に様々な影響を及ぼしており、共生ビジョンに基づく取り組みについても、情勢の変化に応じて、見直し・改善を図っていく必要があると考えております。今後も、ビジョン懇談会等の意見を踏まえながら、ビジョンに基づく取り組みを着実に進めてまいります。

2 報告

(1) 十勝定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱の一部改正について

共生ビジョン懇談会の委員数を変更したことから、要綱第3条第1項を改めたものです。

以 上